

津波で流された防災林を1000年続く松に クロマツ植栽管理ボランティア



5/13(水)、関上地区視察後、仙台空港横の松の防災林へ。ここは東日本大震災の際、津波で防災林の松林がなぎ倒されてしまった場所です。仙台市で造園業を営む田中秀穂さん(86歳)は「この地に1000年続くクロマツを！」と震災直後から種から苗を育て、近隣の小学生に苗を育ててもらい、今から12年前にこの地に植樹をしました。そのクロマツが数メートルまで成長した今、さらに40mまで育成するよう、私たちは松に絡みつ়ツル除去のボランティアをしました。田中さんの植物への愛情と、故郷復興にかける思いに触れました。「こうして静岡や名古屋から、心を寄せてくれてもらえることがありがたいです」と何度も語られた田中さん。宮城県初の植樹医として、自分の仕事を通して故郷復興にかけるお姿に、若い社員の皆さんは大変刺激を受けました。

